

人口減に負けない元気な地方として、徳島が全国屈指の高評価！

(平成 28 年 4 月 18 日 日経新聞 朝刊 11 面より)

1 花咲かゾーン

- ・日経新聞は、人口が減少する中で、生産性を高めることで経済を維持、成長させていく地方創生の 1 つのあり方として「地方が目指す花咲かゾーン」という考え方を示した。

地方が目指す花咲かゾーンとは

2007 年度から 2013 年度までの変化をみた場合、人口は減少しているが、1 人あたり GDP が増加することで、経済成長を実現した地域。こうした地域が 23 道県あるということに着目し、生産性を高めることで活気を維持する今後の地方のあり方の手本となりうるとした。

- ・生産性の向上に注目したこの記事は、5 月 10 日に実施された「第 5 回まち・ひと・しごと創生担当大臣と地方六団体の意見交換会」の資料として、石破まち・ひと・しごと創生担当大臣からも紹介され、全国的にも注目されている。

2 徳島県の位置付け

- ・徳島県は、下のような結果になっている。(式については、解説参照)

人口増減率	+	1 人あたり実質 GDP 増減率	=	経済成長率 (※)
△3.8%	+	12.7%	=	8.9%

(※) 日経新聞が定義した経済成長率

- ・人口減少をそれ以上の大幅な生産性の向上でカバーすることで高い経済成長率を実現。
- ・この経済成長率は、宮城県に次ぐ全国 2 番目の高さ。
- ・東京都や大阪府などでは、人口は増加したものの、1 人あたり GDP が減少したことで、経済は下向きに推移。
- ・本県と同様の人口推移がみられる鳥取県や福井県などは、1 人あたり GDP の減少も重なり、経済はより下向きに推移。

3 徳島県の経済が好調である要因

- ・紙面上で「電気機械や化学の増産効果がけん引」と評されているとおり、製造業における電気機械（電気機械・情報通信機械・電子部品）や化学の増加によるものが大きい。
- ・特に電気機械は、出荷額そのものの増加による名目値の増加に加え、技術革新に伴う価格低下による実質値の上げ圧力により大幅に増加。

解説

グラフの見方

- ・縦軸を人口の増減率、横軸を1人あたりGDP増減率としており、下式のようにそれらの和を経済成長率としている。

$$\text{経済成長率} = \text{人口成長率} + \text{1人あたりGDP成長率}$$

(縦軸)

(横軸)

(成長率=増減率)

(※ここでの経済成長率は、日経新聞が定義したものであり、一般的な経済成長率とは若干異なる。)

- ・「ゼロ成長ライン」は、人口の減少を1人あたりGDPの伸びでカバーすることで経済を維持する境界。(経済成長率=0)

$$0 = \text{人口成長率} + \text{1人あたりGDP成長率}$$

- ・経済成長率がプラスになると「ゼロ成長ライン」の右上に位置＝経済が上向き、マイナスになると左下に位置＝経済が下向き。

<例>

●徳島県

$$\Delta 3.8\%(\text{人口}) + 12.7\%(\text{1人あたりGDP}) \\ = 8.9\%(\text{経済成長率})$$

ゼロ成長ラインの右上に位置
→経済上向き

●東京都

$$4.2\%(\text{人口}) + \Delta 5.9\%(\text{1人あたりGDP}) \\ = \Delta 1.7\%(\text{経済成長率})$$

ゼロ成長ラインの左下に位置
→経済下向き

